

ACO ふれいす事業所自己評価シート（保育所等訪問支援）

保護者による評価

職員による自己評価

実施：令和8年3月

回収14名（回収率82%）

A環境面

1.訪問支援に使用する教育教材

62%が適切であると評価していたが、31%が分からないという回答だった。必要な教材等の周知がなかったことが要因だと思われる。

2.プライバシーに配慮された面接室

100%が適切であると評価していた

3.事業の目的の説明

93%が適切であると評価していた。

4.頻度や時間

93%が適切であると評価していた。

5.職員の体制

100%が適切であると評価していた

B支援内容

6.支援内容

100%が適切であると評価していた

7.支援ニーズに応じた個別支援計画

100%が適切であると評価していた

8.訪問先や担任の意向

100%が適切であると評価していた

9.具体的な支援内容

93%が適切であると評価していた。

10.支援の実施

100%が適切であると評価していた

11.訪問先への配慮

100%が適切であると評価していた

C保護者への説明

12.利用の説明

93%が適切であると評価していた

13.支援内容の説明

100%が適切であると評価していた

14.保護者への研修・情報提供

100%が適切であると評価していた

15.課題の共通理解

93%が適切であると評価していた。

16.子育てへの助言

93%が適切であると評価していた。

17.共感的な支援

93%が適切であると評価していた。

18.相談への対応

93%が適切であると評価していた。

19.親子の意思疎通の配慮

100%が適切であると評価していた

20.訪問先への助言と支援

93%が適切であると評価していた

21.訪問先との話し合い

93%が適切であると評価していた

実施：令和8年3月 回収2名（回収率50%）

A環境面

1.使用する教具・教材

100%が適切であると評価していた

2.職員の配置数

100%が適切であると評価していた

B業務改善

3. PDCA サイクル

100%が適切であると評価していた

4.保護者の意向

100%が適切であると評価していた

5.職員の意見収集

50%が適切であると評価していた

理由：保育所等訪問支援職員のみで集まり機会が少ないことが要因であると思われる。

6.外部評価

50%が適切であると評価していた

理由：外部評価が得られる機会は、利用児が外部機関と関わっているかの有無も関連していることが要因であると思われる。

7.研修

50%が適切であると評価していた

理由：保育所等訪問支援に特化した研修は少ないことが要因であると思われる。

C適切な支援の提供

8.保育所等訪問支援計画

100%が適切であると評価していた

9.個別支援計画の共通理解

100%が適切であると評価していた

10.訪問先との連携

100%が適切であると評価していた

11.職員間の情報共有

100%が適切であると評価していた

12.子どもの観察・アセスメント

100%が適切であると評価していた

13.具体的な支援内容

100%が適切であると評価していた

14.計画に沿った支援

100%が適切であると評価していた

15.チーム連携

100%が適切であると評価していた

16.振り返りの実施

100%が適切であると評価していた

17.訪問先の尊重

100%が適切であると評価していた

18.記録

100%が適切であると評価していた

19.見直しの検討

100%が適切であると評価していた

D関係機関と保護者との連携

20.連携会議への参加

100%が適切であると評価していた

21.連携支援の体制づくり

100%が適切であると評価していた

22.移行支援時の情報共有

100%が適切であると評価していた

23.外部研修

50%が適切であると評価していた

理由：保育所等訪問支援に特化した研修は少ないことが要因であると思われる。

24.自立支援協議会等への参加

100%が適切であると評価していた

25.保護者との共通理解

100%が適切であると評価していた

26.保護者対象の研修

100%が適切であると評価していた

27.情報伝達の配慮

100%が適切であると評価していた

- 22. 保護者への適切な情報共有
100%が適切であると評価していた
- 23. 自己評価の発信
93%が適切であると評価していた
- 24. 個人情報への留意
100%が適切であると評価していた

D 非常対応

- 25. 緊急時対応の連携
86%が適切であると評価していた
- 26. 安全計画（安産の確保）
93%が適切であると評価していた

E 満足度

- 27. 子どもの訪問支援への満足度
79%が適切であると評価していた
- 28. 保護者の支援への満足度
86%が適切であると評価していた

訪問先による評価

実施：令和8年3月
回収5名（回収率100%）

- 1. 助言やアドバイス
100%が適切であると評価していた
- 2. 支援の知識や技術
100%が適切であると評価していた
- 3. 質問への回答
100%が適切であると評価していた
- 4. 困りごとの軽減
80%が適切であると評価していた
- 5. 支援への満足度
100%が適切であると評価していた

E 保護者への説明責任

- 28. 丁寧な説明
100%が適切であると評価していた
- 29. 訪問先に主旨の説明
100%が適切であると評価していた
- 30. 子どもの意思尊重
100%が適切であると評価していた
- 31. 保護者の同意
100%が適切であると評価していた
- 32. 定期的な助言と支援
100%が適切であると評価していた
- 33. 保護者同士の交流機会
50%が適切であると評価していた
理由：保育所等訪問支援に特化した交流会ではなかったことが要因であると思われる。
- 34. 相談体制
100%が適切であると評価していた
- 35. 情報発信
50%が適切であると評価していた
理由：保育所等訪問支援に特化した情報発信が少なかったことが要因であると思われる。
- 36. 個人情報の取り扱い
100%が適切であると評価していた
- 37. 情報伝達の配慮
100%が適切であると評価していた

F 訪問先施設への説明等

- 38. 訪問先からの相談
100%が適切であると評価していた
- 39. 訪問先とのカンファレンス
100%が適切であると評価していた
- 40. 家族等への支援内容の共有
100%が適切であると評価していた
- 41. 個人情報の取り扱い
100%が適切であると評価していた
- 42. 信頼関係
100%が適切であると評価していた

G 非常対応

- 43. マニュアル作成と訓練
100%が適切であると評価していた
- 44. 安全計画
100%が適切であると評価していた
- 45. ヒヤリハット
100%が適切であると評価していた
- 46. 虐待防止
100%が適切であると評価していた
- 47. 身体拘束防止
100%が適切であると評価していた

事業所内での分析

【共通点】

環境面：必要な教材等は保護者の方では知られていないため、評価が下がっていると思われる。職員体制や頻度等については適切であると評価されていたため、継続的に巡回はできていると思われる。

支援内容：保育所等訪問支援の取り組んでいる内容や支援への評価は職員・保護者共に高い評価を得られている。外部研修などが少ないことが、職員の中では不安があるような結果となった。

保護者への説明・情報共有：全体的に高評価ではあるものの、保護者同士の関わる機会を提供できていないことが、職員間での課題で挙げられている。

非常対応：全体的に高評価ではあるものの、実際の避難訓練などは保育所等訪問支援ではできていないため、保護者や職員の中でイメージがわきにくいことが予想される。

満足度：保護者の意見としては、学校へのアドバイスは適切だったが、学校側が実行できていないということや、家庭の中でうまく取り入れられていないなどの話があった。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・ 保育所等訪問支援の内容については評価が高く、継続した訪問支援を行うことでより良い支援を提供していくことができていると思われる。
- ・ 保護者への説明やフィードバックも適切であると評価されており、細やかな情報共有ができていると思われる。
- ・ 職員としても訪問先への説明なども適切にできている認識がある。

事業所の改善点

- ・ 満足度が低いことから、支援内容は適切であっても、学校現場では保護者の意図する方向に促進的改善は難しい場合がある。学校や本児自身の変化の少なさから解答されたと考えられる。より学校、家庭との連携を密にし、学校という集団の大きさや環境の違いによることなど、保護者が理解できるような説明をしていく必要がある。また、より一層な信頼関係を築いていく必要があると思われる。
- ・ 保育所等訪問支援についてのどんなことをするのかという情報発信の少なさなどがあるため、保育所等訪問支援についての説明会や連絡ツールを使った情報発信をしていくことも必要であると思われる。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① 必要な教材や使用しているものも、保護者に発信していく。

支援内容：

- ① 引き続き専門性を生かした支援を提供していく。
- ② 学校や家庭でも受け入れられやすい支援方法を具体的に伝えていく。

情報発信・共有：

- ① ICT ツールを活用し、より広く情報が知られるように工夫をする。
- ② 広報誌などを用い、利用していない保護者にも存在が認知されるよう発信していく。
- ③ 保護者会などを企画し、保護者同士が情報を共有できる機会を提供していく。

非常対応：

- ① 非常時の対応、マニュアルをすべての職員が把握し、対応を行えるよう内部研修を行う。
- ② 災害備蓄や避難場所の確認、スムーズな誘導が行えるよう避難訓練を行う。
- ③ 活動中の対応について保護者と事前の取り決めをしておき混乱の生じないよう対応する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

支援内容への評価が高い一方で、満足度が低いことに調整などの支援の足りなさを痛感した。学校という環境の中では保護者が意図する方向と学校の方針とに食い違いが起こりやすい。この点のズレは巡回をする支援者がいかに学校と家庭の繋ぎ手になれるかである。

学校現場や家庭に寄り添う支援は勿論のこと、十分な説明やアドバイスを培う支援者を育成していくことも事業所の職務である（本部より）。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれいす

担当者：筒本 千文